

技術的側面：看護技術についての到達目標

★：1年以内に到達を目指す項目

到達の目安 IV：知識としてわかる III：演習でできる II：指導の下でできる I：できる

		★			到達の目安
環境調整技術	①温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音、病室整備の療養生活環境調整 (例：臥床患者、手術後の患者等の療養生活環境調整)	★			I
	②ベッドメイキング(例：臥床患者のベッドメイキング)	★			I
食事援助技術	①食生活支援			II	
	②食事介助(例：臥床患者、嚥下障害のある患者の食事介助)	★			I
	③経管栄養法	★			I
排泄援助技術	①自然排尿・排便援助(尿器・便器介助・可能な限りおむつを用いない援助を含む)	★			I
	②導尿				I
	③膀胱内留置カテーテルの挿入と管理				I
	④浣腸				I
	⑤摘便			II	
活動・休息援助技術	①歩行介助・移動の介助・移送	★			I
	②体位変換(例：①及び②について、麻痺等で活動に制限のある患者等への実施)	★			I
	③廃用性症候群予防・関節可動域訓練			II	
	④入眠・睡眠への援助	★		II	
	⑤体動・移動に注意が必要な患者への援助 (例：不穏、不動、情緒不安定、意識レベル低下、鎮静中、高齢者等への援助)	★		II	
清潔・衣生活援助技術 (例：①から⑥について、 全介助を要する患者、 ドレーン挿入、点滴を 行なっている患者等 への実施)	①清拭	★			I
	②洗髪				I
	③口腔ケア	★			I
	④入浴介助				I
	⑤部分浴・陰部ケア・おむつ交換	★			I
	⑥寝衣交換等の衣生活支援、整容	★			I
呼吸・循環を整える 技術	①酸素吸入療法	★			I
	②吸引(口腔内、鼻腔内、気管内)	★			I
	③ネブライザーの実施		IV		
	④体温調整	★			I
	⑤体位ドレナージ			II	
	⑥人工呼吸器の管理		IV		
創傷管理技術	①創傷処置			II	
	②褥瘡の予防	★			I
	③包帯法			II	
与薬の技術	①経口薬の与薬、外用薬の与薬、直腸内与薬	★			I
	②皮下注射、筋肉内注射、皮内注射				I
	③静脈内注射、点滴静脈内注射				I
	④中心静脈内注射の準備・介助・管理			II	
	⑤輸液ポンプの準備と管理				I
	⑥輸血の準備、輸血中と輸血後の観察			II	
	⑦抗菌薬、抗ウイルス薬等の用法の理解と副作用の観察	★		II	
	⑧インシュリン製剤の種類・用法の理解と副作用の観察			II	
	⑨麻薬の種類・用法の理解と主作用・副作用の観察			II	
	⑩薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)			II	
救命救急処置技術	①意識レベルの把握	★			I
	②気道確保	★		II	
	③人工呼吸	★		II	
	④閉鎖式心臓マッサージ	★		II	
	⑤気管挿管の準備と介助	★		II	
	⑥外傷性の止血			II	
	⑦チームメンバーへの応援要請	★			I
症状・生体機能管理 技術	①バイタルサイン(呼吸・脈拍・体温・血圧)の観察と解釈	★			I
	②身体計測	★			I
	③静脈血採血と検体の取り扱い	★			I
	④動脈血採血の準備と検体の取り扱い			II	
	⑤採尿・尿検査の方法と検体の取り扱い				I
	⑥血糖値測定と検体の取り扱い	★			I
	⑦心電図モニター・12誘導心電図の装着、管理			II	
	⑧パルスオキシメーターによる測定	★			I
苦痛の緩和・安楽確保 の技術	①安楽な体位の保持	★		II	
	②罨法等身体安楽促進ケア			II	
	③リラクゼーション技法(例：呼吸法・自律訓練法等)			II	
	④精神的安寧を保つための看護ケア(例：患者の嗜好や習慣等を取り入れたケアを行う等)			II	
感染防止技術	①スタンダードプリコーション(標準予防策)の実施	★			I
	②必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択	★			I
	③無菌操作の実施	★			I
	④医療廃棄物規定に沿った適切な取り扱い	★			I
	⑤針刺し切創、粘膜暴露等による職業感染防止対策と事故後の対応	★			I
	⑥洗浄・消毒・滅菌の適切な選択				I
安全確保の技術	①誤薬防止の手順に沿った与薬	★			I
	②患者誤認防止策の実施	★			I
	③転倒転落防止策の実施	★			I
	④薬剤・放射線暴露防止策の実施			II	
死亡時のケアに 関する技術	①死後のケア			III	

